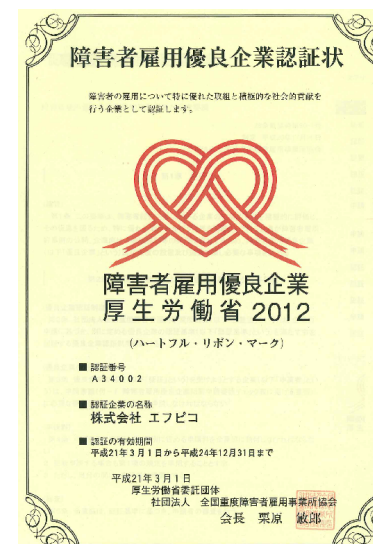


2010年3月期 第2四半期 決算説明会



本資料取扱のご注意



本説明会のプレゼンテーションおよび配布資料に掲載する情報に関しまして、細心の注意を払っております。将来の予測等に関する情報は、現時点で入手可能な情報にもとづき、当社が判断した予測であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は、記述している将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。

本説明会の配布資料に掲載する情報は、無断での引用や転載、複製は禁じられております。

= 目次 =



◆ <u>実績報告</u>	経理財務本部長	瀧崎 俊男	3
◆ <u>業績状況報告</u>	代表取締役会長	小松 安弘	9
◆ <u>企業基盤の強化</u>	代表取締役社長	佐藤 守正	27
◆ <u>業績予想</u>			41
◆ <u>添付資料</u>			45

実績報告

2010年3月期 第2四半期 累計

經理財務本部長
瀧崎 俊男

販売状況 (2010年3月期 第2四半期累計)



数量伸長率(枚数)

単位:百万円

	第2四半期累計 実績				増減	前年比	数量伸長率(枚数)	第2四半期累計 計画		
	09/3月期	百分比	10/3月期	百分比				10/3月期	百分比	達成率
ト レ ー 容 器	13,812	21.4	13,583	21.6	228	98.3%	103.3%	14,651	22.2	92.7%
弁 当 容 器	33,368	51.8	34,534	54.8	+ 1,166	103.5%	105.2%	34,133	51.7	101.2%
そ の 他 製 品	919	1.4	811	1.3	108	88.2%	104.4%	610	0.9	133.0%
[製 品]	48,100	74.6	48,929	77.7	+ 828	101.7%		49,395	74.8	99.1%
包 装 資 材	9,196	14.3	8,799	14.0	396	95.7%		12,155	18.4	72.4%
そ の 他 商 品	7,152	11.1	5,273	8.4	1,879	73.7%		4,450	6.7	118.5%
[商 品]	16,349	25.4	14,073	22.3	2,276	86.1%		16,605	25.2	84.8%
[売 上 高]	64,449	100.0	63,002	100.0	1,447	97.8%		66,000	100.0	95.5%

計画は、2009年5月11日発表の業績予想であります。

製品 出荷枚数 前年比104.4%伸長

- 製品価格: 前Q4からの原材料価格の値下がりにより、'09/3より製品価格への還元を実施。
- トレー容器: 超軽量化ロースタックトレーのFLBシリーズが好調
- 弁当容器: 個食化の進行により、弁当惣菜容器が好調
PET素材製品の新製品の引き合いも順調

商品

- 包装資材等の推奨商品への絞込みと不採算取引の見直しを実施。
- 前Q2実績の その他商品は、販売用美術骨董品の売上1,333百万円を含む。

ご参考: 販売用美術骨董品を除く。

そ の 他 商 品	5,819	5,273	546	90.6%	4,450	118.5%
[商 品]	15,016	14,073	943	93.7%	16,605	84.8%
[売 上 高]	63,116	63,002	114	99.8%	66,000	95.5%

決算概要 (2010年3月期 第2四半期累計)



単位:百万円

	第2四半期累計 実績						第2四半期累計 計画		
	09/3月期	百分比	10/3月期	百分比	増減	前年比	10/3月期	百分比	達成率
【 純 売 上 高 】	64,449	100.0	63,002	100.0	1,447	97.8%	66,000	100.0	95.5%
製品売上高	48,100	74.6	48,929	77.7	+ 828	101.7%	49,395	74.8	99.1%
商品売上高	16,349	25.4	14,073	22.3	2,276	86.1%	16,605	25.2	84.8%
【 営 業 利 益 】	3,723	5.8	5,844	9.3	+ 2,120	156.9%	5,170	7.8	113.0%
【 経 常 利 益 】	3,920	6.1	6,010	9.5	+ 2,089	153.3%	5,200	7.9	115.6%
【 税 引 前 利 益 】	3,801	5.9	5,891	9.4	+ 2,090	155.0%	5,000	7.6	117.8%
【 当 期 利 益 】	2,325	3.6	3,480	5.5	+ 1,155	149.7%	2,980	4.5	116.8%

計画は、2009年5月11日発表の業績予想であります。

合理化: 徹底した社内合理化を実施。全製品の軽量化および素材変更による原材料費の削減、生産性向上と、社内合理化によるコスト削減。アイテム数の大幅な絞込み。

原料面: 前Q4より値下がりした原材料価格は、当Q2より値上がりに転じる。

販売面: 前Q4の原材料価格の値下がりに伴い、製品価格への還元を実施したものの、製品数量が汎用製品・軽量化製品の拡販などにより増加。

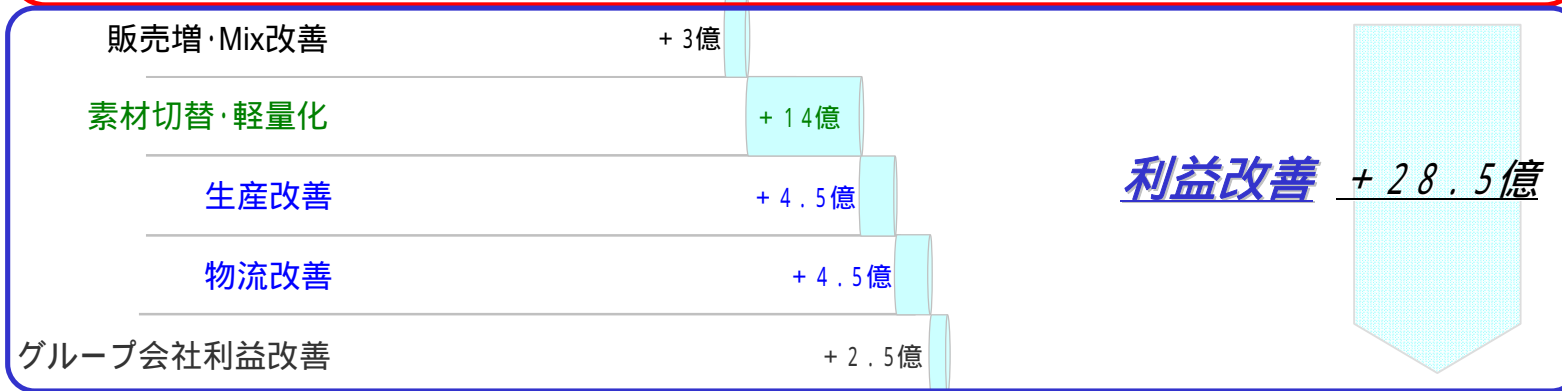
生産面: 生産性および品質の向上に取り組み、需要拡大に対応した生産能力の拡大と生産拠点の最適化。

物流面: 需要に即した供給体制の構築。在庫水準の適正化、横持ち・保管にかかわるコストの低減。

經常利益 增減要因 (2010年3月期 第2四半期累計)



47期 上期 經常利益 39.2億



前期比 +20.9億
153.3%
(美術品除く +25億, 171%)

48期 經常利益 上期 60.1億

計画比 +8.1億 48期 上期 經常利益 60.1億

設備投資・研究開発費 (2010年3月期 第2四半期累計)



単位:百万円

	第2四半期累計 実績				第2四半期累計 計画	
	09/3月期	10/3月期	増減	前年比	10/3月期	計画比
有形固定資産	5,141	3,993	1,147	77.7%	3,400	117.4%
内、土地	1,286	1,297	11		600	
無形固定資産	455	204	251	44.9%	260	78.5%
減価償却費	2,291	4,075	1,783	177.8%	4,120	
(旧基準減価償却費)		2,339)		2,400	
研究開発費	487	503	16	103.3%	495	101.6%

主な設備投資

中部ピッキングセンター・リサイクル工場用地	1,001	百万円	
福山新ピッキングセンター	208		投資総額 1,800 百万円
金型	679		
透明回収選別工場 等	688		
IT投資	138		
M & A (太洋興業株つくば工場)	434		

キャッシュ・フロー (2010年3月期 第2四半期累計)



単位: 百万円

第2四半期累計 実績		
	09/3月期	10/3月期
営業活動による C/F	5,171	5,817
投資活動による C/F	5,017	5,627
フリー・キャッシュフロー	154	190
財務活動による C/F	1,522	4,843
現金及び現金同等物の増減額	1,676	4,654
現金及び現金同等物の高残	9,901	11,454

営業活動によるキャッシュフロー		
税金等調整前四半期純利益	5,891	百万円
減価償却費	4,075	
売上債権の増加	3,174	
(うち手形債権の流動化)	2,007)
たな卸資産の減少	757	
仕入債務の増加	406	
法人税等の支払額	2,694	
投資活動によるキャッシュフロー		
有形固定資産の取得	5,180	
無形固定資産の取得	351	

財務活動によるキャッシュフロー	
借入金の純減少額	7,250 百万円
コマーシャルペーパー発行	5,000
リース債務の返済	1,716
配当金の支払額	898

業績状況報告

代表取締役会長
小松 安弘

経営方針と目標



－ 経営方針 －

食文化・食生活の変化を先取りし、

お客様満足を第一とした、高品質の製品とサービスの提供。

企業としての社会責任を重んじ、新たな価値を創造し、

豊かな社会の実現に貢献。

お客様、株主の皆様、社会そして企業の絶え間ない発展。

－ 経営目標 － 長期

簡易食品容器の総合メーカーとして、売上5,000億円の企業規模

・製品売上高: マーケット4,500億円に対し2,000億円

・商品売上高: マーケット2兆円に対し3,000億円

・製品経常利益率: 10%

・商品経常利益率: 5%

メーカーとして、最新鋭設備への維持更新、積極的合理化投資

環境経営 CO2削減への取組み

－ 中期目標 －

1株当たり当期純利益 400円

自己資本当期純利益 15%

配当方針



株主の皆様への利益還元を最重要課題の一つと考えており、
収益力の向上と財務体質の強化を図り、
継続的かつ安定的な配当を実施するため、



連結ベースでの配当性向 30% を目途にしております。

配当推移	02 / 3	03 / 3	04 / 3	05 / 3	06 / 3	07 / 3	08 / 3	09 / 3
一株当り配当金(円)	37	32	32	32	45	57	58	76
配当性向(%)	32.8	56.3	43.3	29.7	27.2	27.6	30.2	30.0
自己株式取得総額(百万円)	222	1,524	486	499	0	688	2,158	732

自己名義保有株式数：1,257,341株 (2009年3月末)

(2005年3月 自己株式205万株を消却)

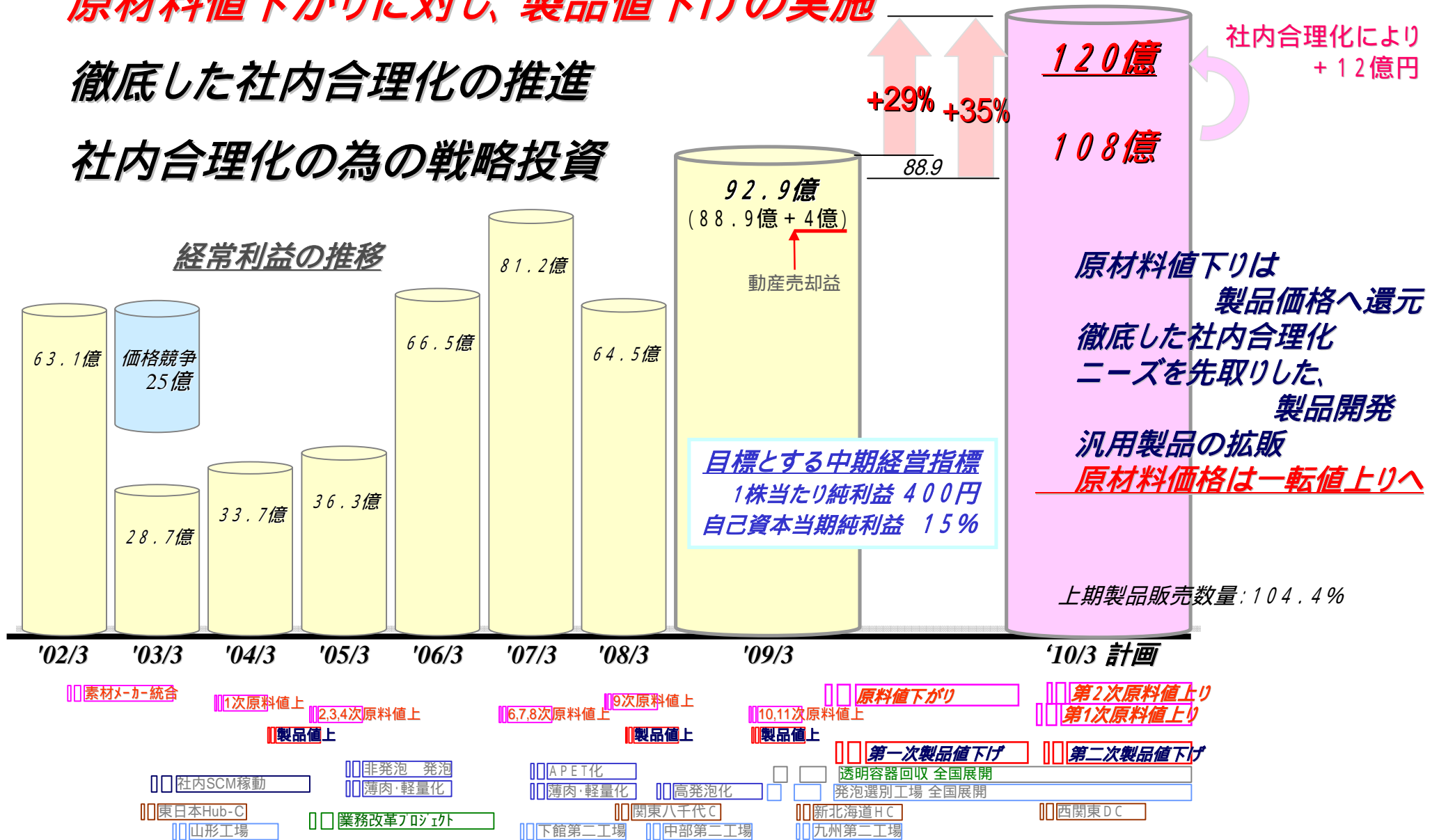
連結決算のポイント



原材料値下がりに対し、製品値下げの実施

徹底した社内合理化の推進

社内合理化の為の戦略投資



経常利益 増減要因 (2010年3月期第2四半期累計)

ご参考



47期 経常利益

上期 39.2億

1Q:13.8億、2Q:25.4億



原材料

前期に値上りした原材料価格は、前第4四半期から値下り。しかしながら、今第2四半期より値上りに転じた。

製品値下

前第4四半期からの原材料値下りに対し、製品価格の値下げを実施。
 ・前期製品値上分の値下げ
 ・原材料値下り分を製品価格へ還元

1・2次原料値上り

今期 20億
 上期 6億 下期 14億

製品販売数量: 104.4%



素材切替・軽量化

軽量化製品への切替、PSからAPET、PPへの素材切替が計画以上のペースで推移した。

生産改善

施策の進捗に加え、数量増もあり改善効果が計画を上回る。

物流改善

施策の進捗が芳しく、改善効果が計画を上回る。

製品アイテム数の絞込み

今期末5,000アイテム目標 (6,200アイテム 7,000アイテム)
 前期からの絞込みの効果が顕在化

前期比 +20.9億:153.3%
 (美術品除く +25億:171%)

期初計画 +8.1億

1Q:28.1億(+14.3億+103.6%)、2Q:32億(+6.6億+26%)



2010年3月期 経常利益 増減要因 期初計画 ご参考



2010年3月期 経常利益 見通し

ご参考



原材料

今第2四半期より値上りに転じた原材料価格は、今期通期で20億円の利益圧迫要因と考える。

製品値下

前第4四半期からの原材料値下りに対し、製品価格の値下げを実施。
 ・前期製品値上分の値下げ
 ・原材料値下り分を製品価格へ還元

新たな原材料値上りに対しては、

社内合理化及び拡販で対応

・製品アイテム数の絞込み
 今期末5,000アイテム目標

前期比 +27.1億:129.2%
 (美術品除く +31.2億:135%)

期初計画 +12億
 (上期 +8.1億、下期 +3.9億)

2010年3月期 経常利益 見通し (上・下)

ご参考



47期 経常利益

上期 39.2億

下期 53.8億

47期 原料値上 影響

25億

6億

原料値下

+ 25億

+ 19億

+ 34億

47期 製品値上 影響

+ 25億

第1次 製品値下

24億

20億

第2次 製品値下

+ 素材切替・軽量化による製品値下抑制効果

10億

10億

1・2次 原料値上

6億

14億

新たな原材料値上りに対しては、

販売増・Mix改善

+ 3億

+ 3億

+ 51億

素材切替・軽量化

+ 14億

+ 6億

生産改善

+ 4.5億

+ 5億

物流改善

+ 4.5億

+ 5億

グループ会社利益改善

+ 2.5億

+ 2.5億

前期美術品売却益

4億

経費増加

4Q エフピコビッグフェア開催

7.6億

5.3億

48期 経常利益

上期 60.1億

下期 60億

上期: + 20.9億 +53.3%、下期: + 6.2億 +11.5%

原材料

今第2四半期より値上りに転じた原材料価格は、今期通期で20億円の利益圧迫要因と考える。

製品値下

前第4四半期からの原材料値下りに対し、製品価格の値下げを実施。

- ・前期製品値上分の値下げ
- ・原材料値下り分を製品価格へ還元

社内合理化及び拡販で対応

前期比 + 27.1億: 129.2%

(美術品除く + 31.2億: 135%)

期初計画 + 12億

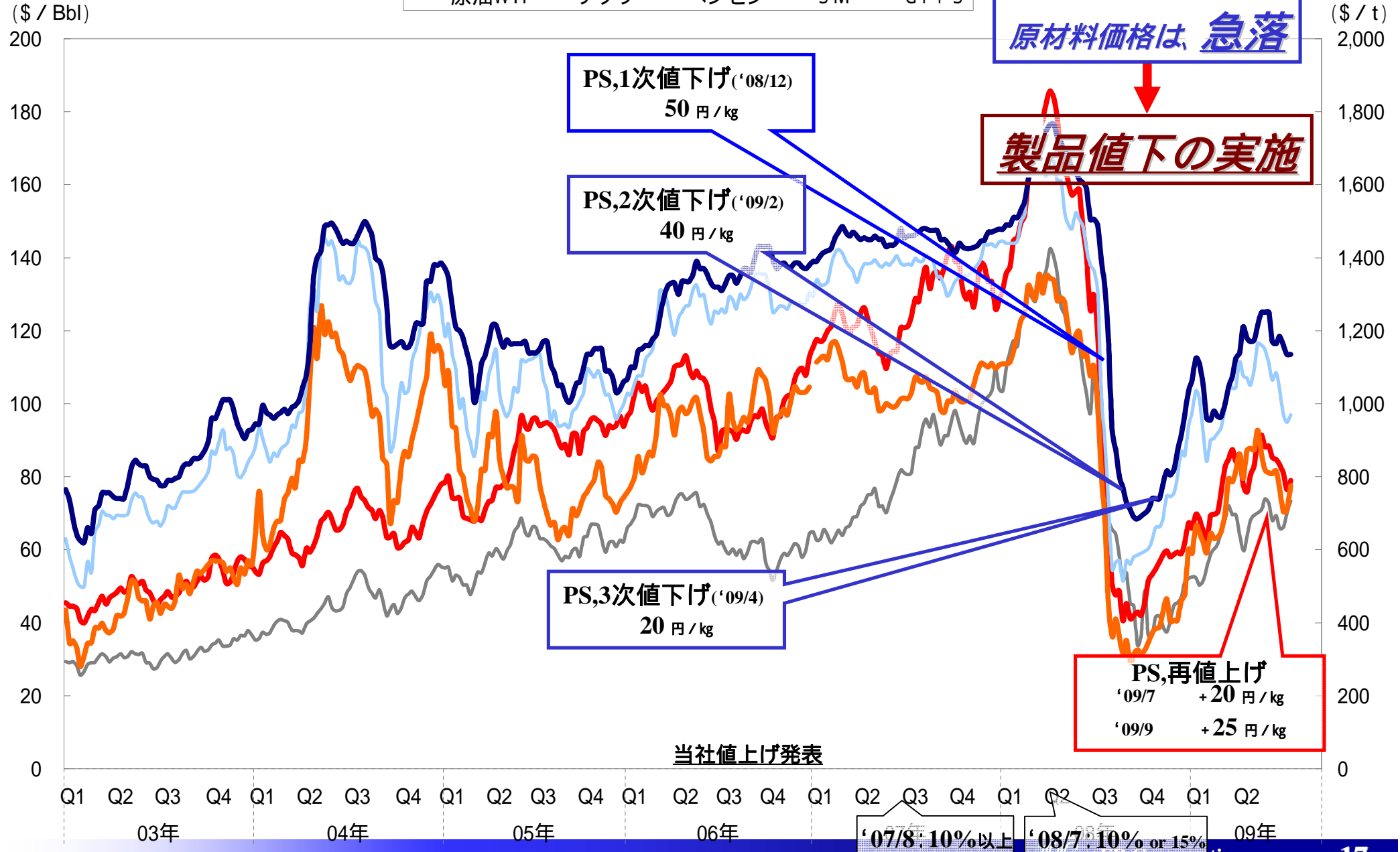
(上期 + 8.1億、下期 + 3.9億)



原材料動向



— 原油WTI — ナフサ — ベンゼン — SM — GPPS

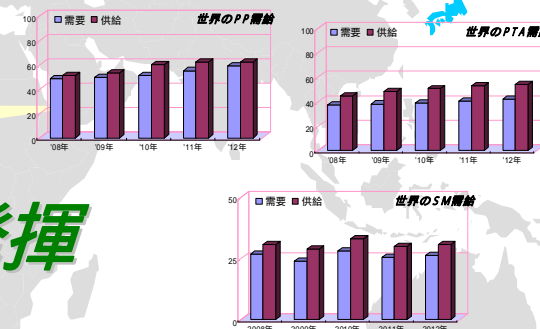


原材料価格動向と製品価格

原材料価格

- 47期第3四半期にピークを迎え、第4四半期から急落
- 今第2四半期より一転して値上りへ
- 内外需給バランスは、国内PSメーカー統合後も不安定な供給バランス

トップユーザとして
グローバルな資材調達で
優位性発揮



製品価格

- 原料値下りは製品価格へ還元
 - ✓ 平成21年3月より第一次値下を実施
 - ✓ 第二次値下は、シェア拡大への価格施策と併せて実施
- 原料値上りは社内合理化と販売拡大で対応
 - ✓ 一部素材については価格改定

素材、生産、物流に裏打ちされた **価格競争力** + **品質、機能での優位性**

汎用製品シェア拡大

- 超軽量ロースタックトレイ FLB、IJFLB
- 嵌合フードパック AP-SA、OPS-SA、PP-SA
- フードパック FP7-ド(OPS)
- 透明トレイ AP-FC

素材切替・軽量化

- 透明容器素材シフト OPS APET、PP
- PSP発泡容器のロースタック・軽量化 低発泡 高発泡

高付加価値・機能

- 漏れにくい容器 APET、PP
- 新デザイン容器
- 耐熱容器

アイテムの集約

‘10年3月末 **5,000アイテム**への絞込みを計画 6,200アイテム(‘09年3月末)



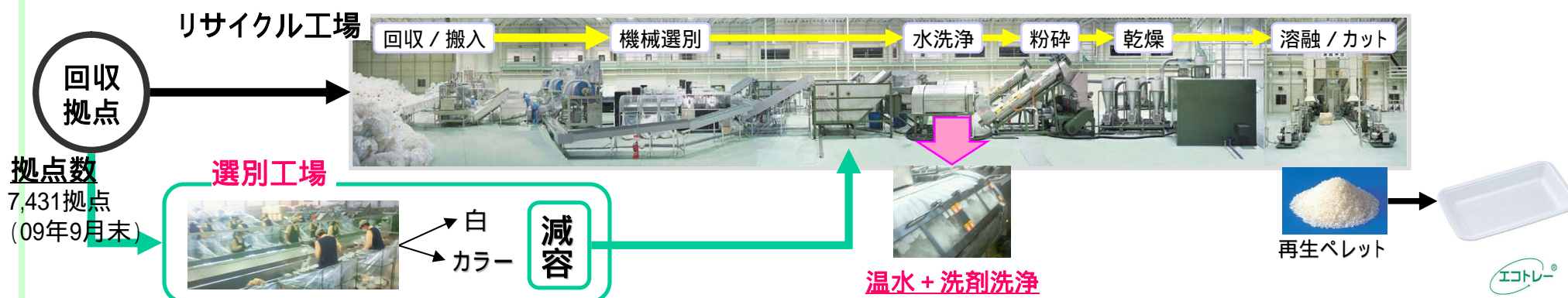
両面真空成型



トレー・リサイクルと透明容器回収



発泡トレー・リサイクルの進化



選別工場の全国展開(色選別+減容)と洗浄工程刷新により、
リサイクルコスト削減とペレット品質向上

透明容器回収 全国展開



PETに関しては
トレーtoトレーに向けて研究・開発中



「20年前の消費者運動」を踏まえ、**最大のリスクに備える**
障がい者雇用の場を全国に展開

社会貢献と企業活動

(2009年9月末現在)



企業と地域との結びつきを強め、障がい者雇用の場を全国に展開

特例子会社 ● 障がい者 115名(実数73名)

- ダックス PSP容器成型
- ダックス四国 OPS容器成型
- ダックス佐賀 明太子容器へのウレタノ貼付
- 茨城ピジョンリサイクル(関東選別センター) 透明容器選別

障がい者雇用率は8.21%

(ハートフル・リボン・マーク)



透明容器選別ライン



就労継続支援A型 ● 障がい者 288名(実数155名)

- エフピコ愛パック 北海道工場
- " 山形工場
- " 茨城工場
- " 岐阜工場
- " 西宮工場
- " 福山工場
- " 広島工場
- " 九州工場



ウッド組立作業

発泡トレイ・透明容器 選別工場 ★

- 中部選別センター 透明 1ライン
- 西宮選別センター 透明 1ライン 発泡 1ライン
- 福山選別センター 透明 4ライン 発泡 2ライン
- 九州選別センター 透明 1ライン



PSP選別ライン

金沢選別センター 透明2ライン 地元社会福祉法人
F&Y 境港 ウッド組立 障がい者 22名

グループで423名(実数246名)の障がい者の方々が就労

経済的・環境的・社会的側面での、企業価値の拡大を目指す

障がい者雇用者数は、重度障がい者を重複加算

主な設備投資



全国展開する生産・物流・リサイクル拠点を強化

アイ・ロジック西関東DC

‘09年5月より稼動開始 約2,600坪



福山新ピッキングセンター

‘10年3月完工予定 約7,300坪

既存棟と連結し、ピッキング能力が1.5倍に拡充



中部ピッキングセンター・リサイクル工場リニューアル

‘11年2月完工予定

中部・東海エリアのピッキング、リサイクル機能を強化



PETリサイクルプラントの導入

リサイクル選別工場の全国展開

リサイクル工場洗浄設備を順次刷新

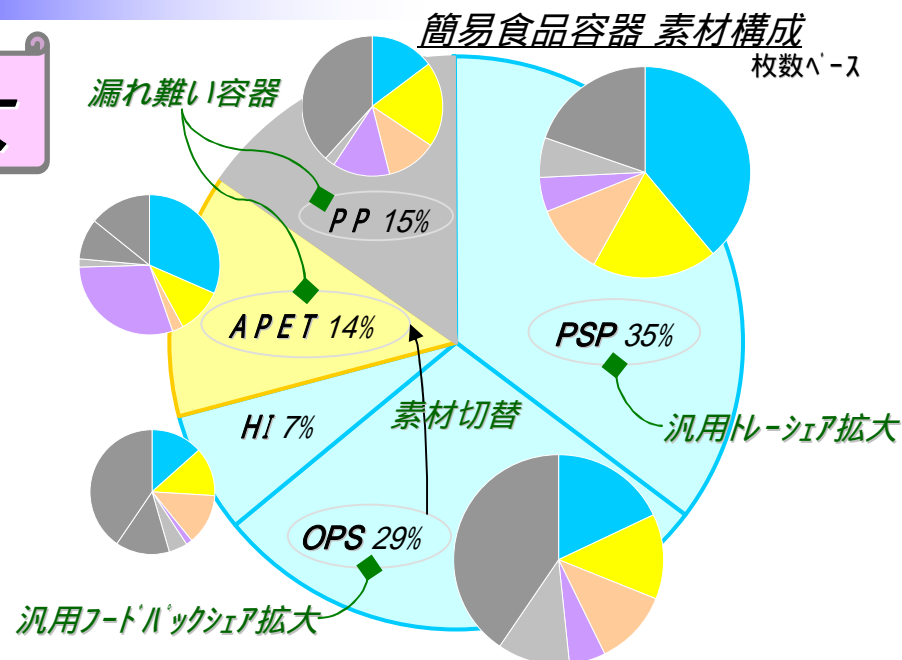
国内食品容器業界の状況



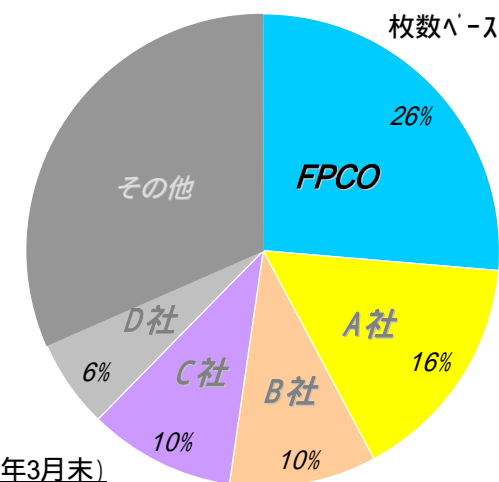
業界内での優位性を高め収益拡大

- ✓ リサイクル・CO2削減
- ✓ 食の安全・安心
- ✓ 物流ネットワーク
- ✓ サプライチェーンマネジメント
- ✓ 顧客への情報提供
- ✓ 製品開発力
- ✓ 汎用製品の優位性

一部推定 単位:億円	国内売上高		経常利益		純利益		主要製品
	前期	今期	前期	今期	前期	今期	
エフピコ	1,282	1,330	93	120	53	69.5	総合素材
A社	685	630	36	19	69	32	総合素材
B社	627	-	-	-	-	-	弁当容器
C社	429	-	5	-	-	-	APET
D社	182	-	-	-	-	-	OPS
その他約95社	-	-	-	-	-	-	非発泡



簡易食品容器 企業シェア



枚数ベース:弊社調査(2009年3月末)
素材別重量情報を弊社素材別単位重量で換算

トータルサービス

ご参考



小売業界が抱える経営課題



小売業界の課題解決を強力にサポート

企業規模拡大へ



市場規模: 2兆円超



エフピコビッグフェア2010 開催



『エフピコビッグフェア』を開催

決定権者への提案
春以降の新製品拡販

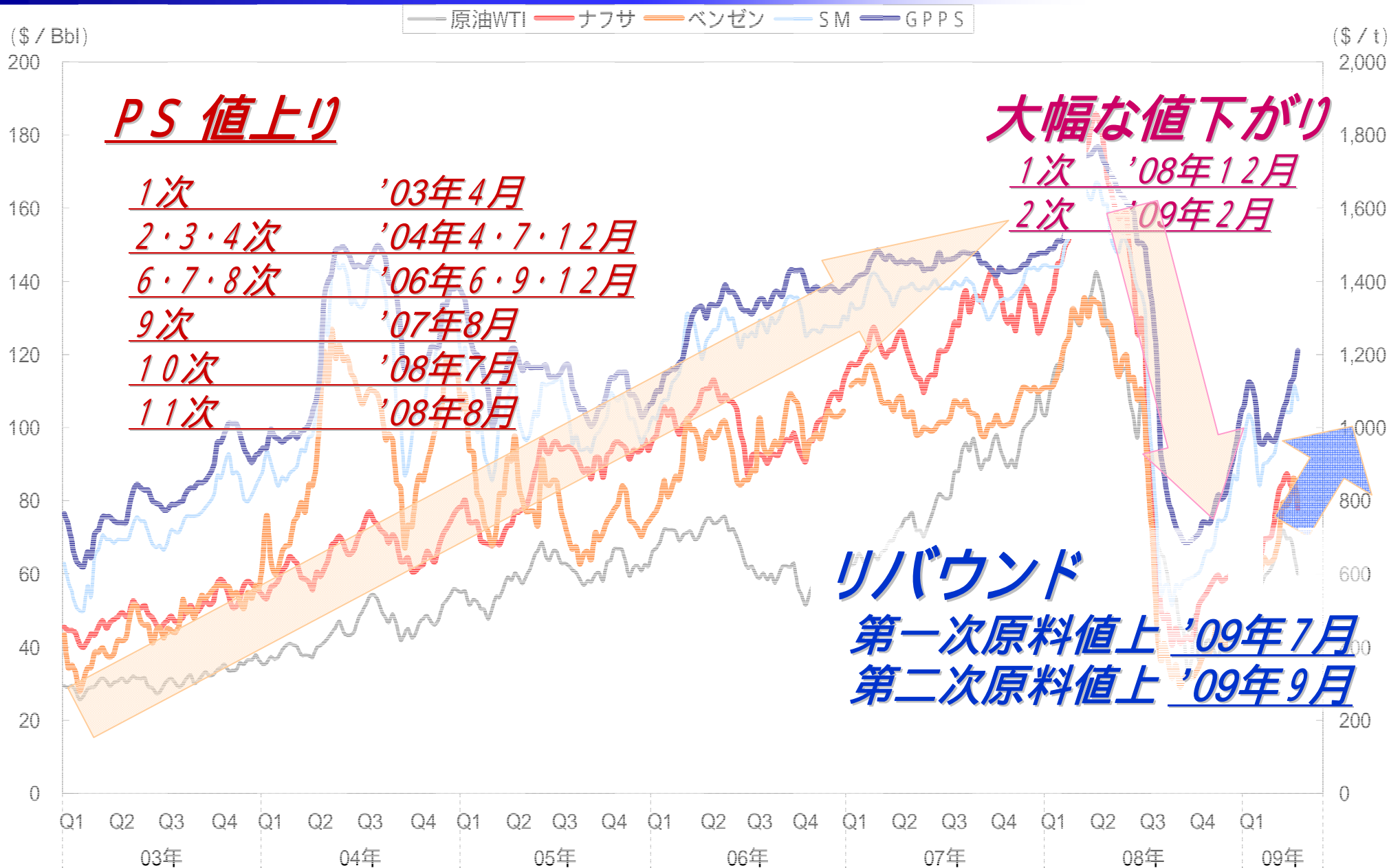


日程:平成22年 3月16日(火)～18日(木)
場所:東京ビッグサイト 西4館(7,200㎡)

企業基盤の強化

代表取締役社長
佐藤 守正

度重なる原材料価格の高騰と急激な下落



原材料価格上昇の影響

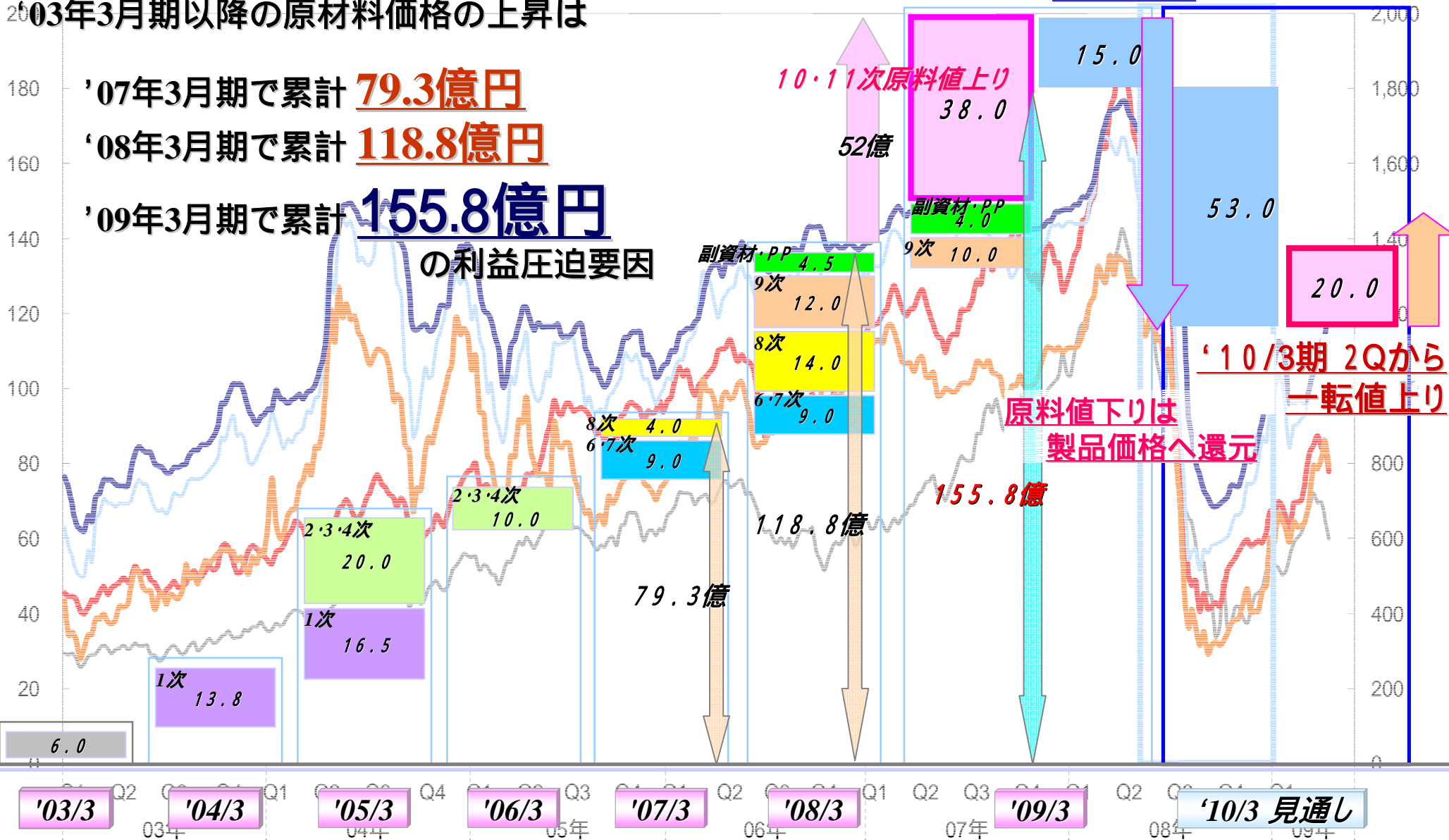


(\$ / Bbl)

2003年3月期以降の原材料価格の上昇は

'07年3月期で累計 **79.3億円**
 '08年3月期で累計 **118.8億円**
 '09年3月期で累計 **155.8億円**
 の利益圧迫要因

— 原油WTI — ナフサ — ベンゼン — SM — GPPS '09/3期 4Qから 原料値下り



単位:億円

新たなステージへ向けて

メーカーとしての基本 3本柱 を徹底的に追求



企業基盤をより強固に

企業価値と競争力を高める

メーカーとして 品質向上と生産性アップ

技術・素材 開発

生産数量増加

稼働率向上

スクラップ&ビルド

自社生産比率アップ

製品効率向上

生産品質向上

アイテム絞込み

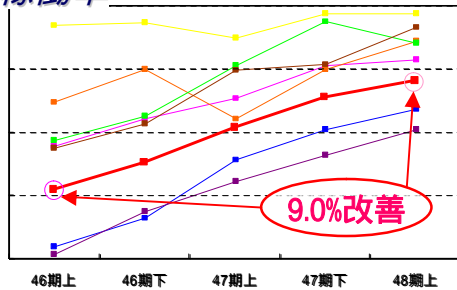
QCと人材育成

- ▶ 製品品質の更なる向上
- ▶ 販売数量増加への対応
- ▶ 製造コストの削減

生産性アップと品質向上

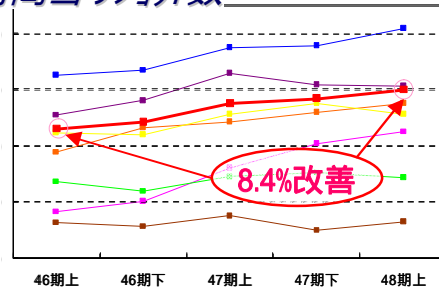


稼働率



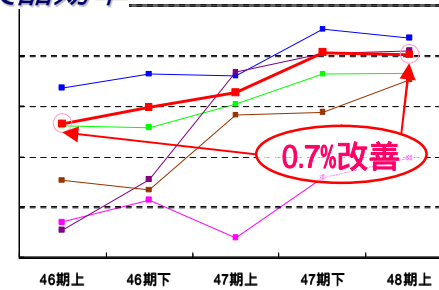
1. 段取時間の短縮
2. トラブル調整停止時間の削減

時間当りショット数



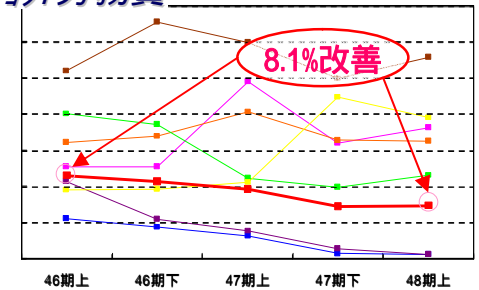
1. 製品別ベストサイクルへの挑戦
2. 生産設備の更新・改造を計画的に行う

製品効率



1. トラブル調整停止時間の削減
2. ラミ機スタート時ロスの削減

ショット労務費



1. 最適な人員配置の検討
2. 残業時間の削減

これら改善による、上期における見なし効果は、およそ**5億5千万円**

(技能塾)

「人づくりのための教育プログラム」

優秀な技能の継承
能力の開発・向上

‘09年3月期 49名 卒業
‘10年3月期 上期 26名 卒業
下期 24名 入塾

(モノづくり革新プロジェクト)

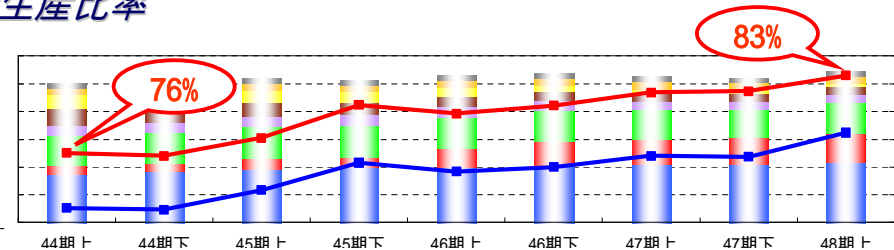
「速さと正確さ」の追求

5Sをベースに、無駄・ロスの見える化
問題意識の共有

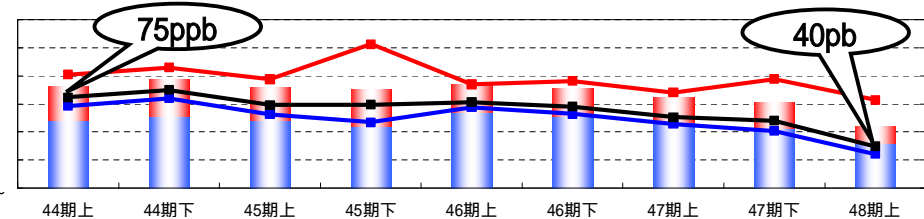
作業標準の見直し・改定による高位標準化

半期に一度の発表報告会を継続

自社生産比率



クレーム発生率 ppb



目標 10ppb



技術・素材



カラートレーの先駆者として培った ラミネート技術

PSPにおける金型・成型機 両面真空成型技術

PSP原反・フィルム 素材開発力

汎用トレーにおいても、

総合技術で他社の追隨を許さない!

FLB軽量化

エコトレーも16年間で30%超の軽量化
ラミネート技術を活用して、現在のFLBシリーズへと進化させてきました。

1992年	RA・LAシリーズ	5.00g
2000年	RA・LSシリーズ	4.50g
2003年	エコFLSシリーズ	4.34g
2007年	エコFLBシリーズ	3.75g
2008年	エコFLB新シリーズ	3.52g
	エコFLB新々シリーズ	3.41g



価格も含め、トータルで競争力のある製品作り

素材、原反、フィルム、金型、成型、
総合技術で、
”

更なるコスト削減
更なる機能アップ

漏れにくい容器の上市

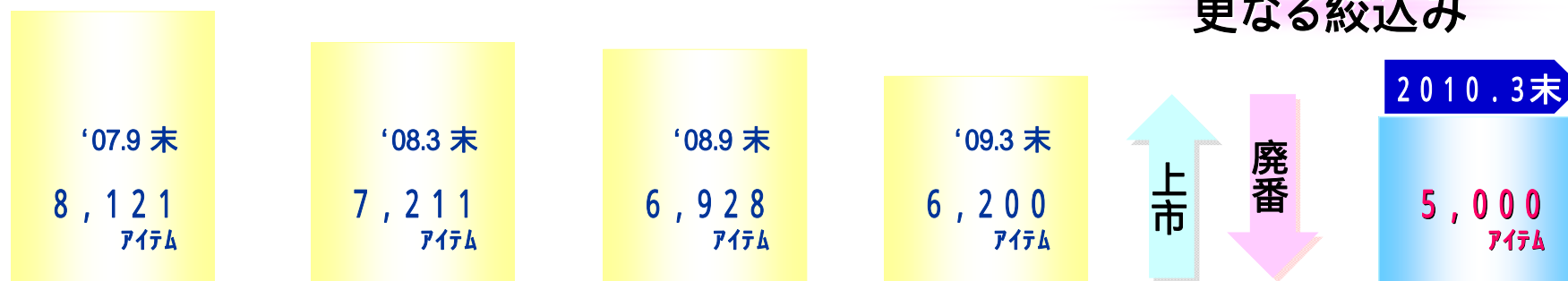
新耐熱透明容器の開発

改ざん防止機能の開発

製品アイテム絞込み



更なる絞込み



汎用トレイ集約

FLS、FKS、FSS、
LA、FA、S&S
FP、LS、FLB

汎用 280型 / 1,400アイテム

FLB

FLB 70型 / 540アイテム

エリア専用製品の設定

西日本	全国 共通製品	東日本
243 アイテム		303 アイテム

製品アイテム絞込みの継続により、
'10年3月期上期は、
'08年3月期上期対比で、

PSP汎用トレイの生産で、金型替え回数 **51%**
PSP製品生産全体で、金型替え回数が **72%**

メーカーとして

物流網を生かし、業界全体のコスト削減へ

配送品質向上

倉庫稼働率向上

物流ネットワーク拡充

得意先配送効率アップ

金型移送・資材調達

小分けピッキング効率アップ

静脈物流活用

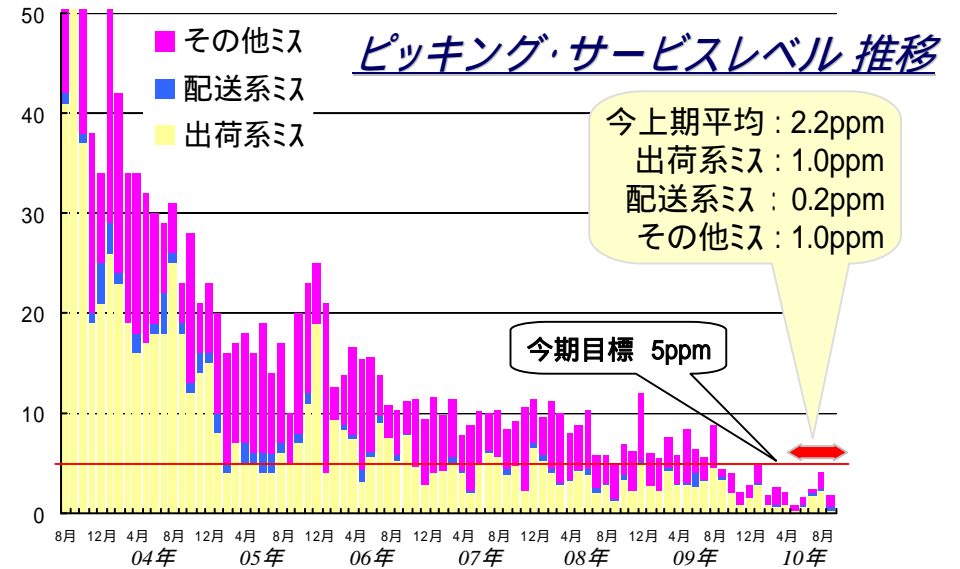
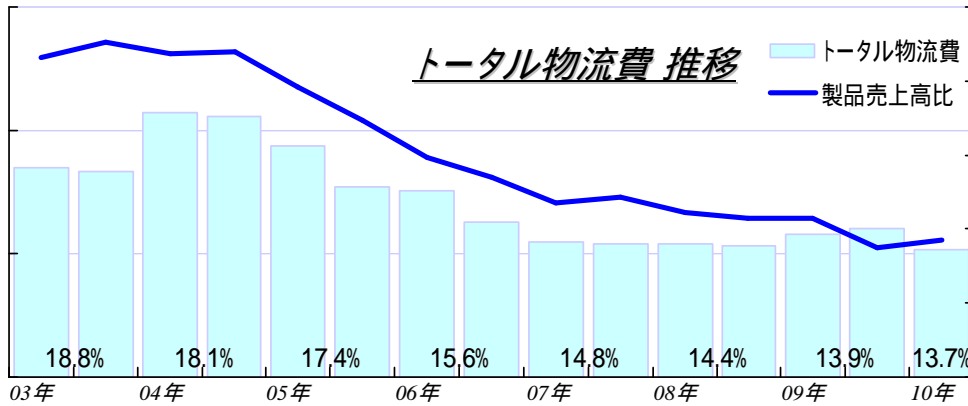
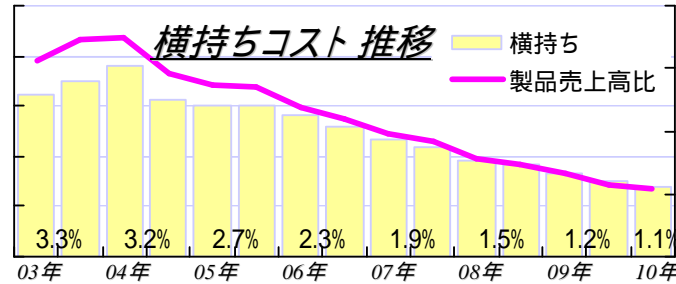
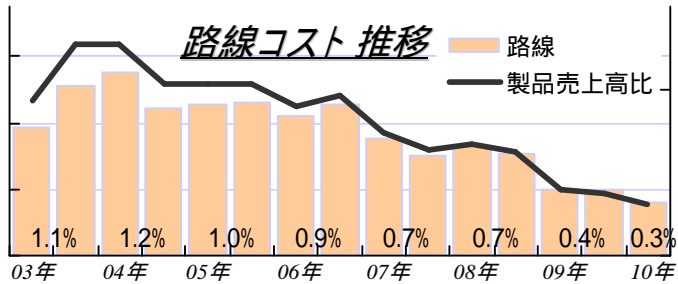
横持ち抑制

アイテム絞込み

QCと人材育成

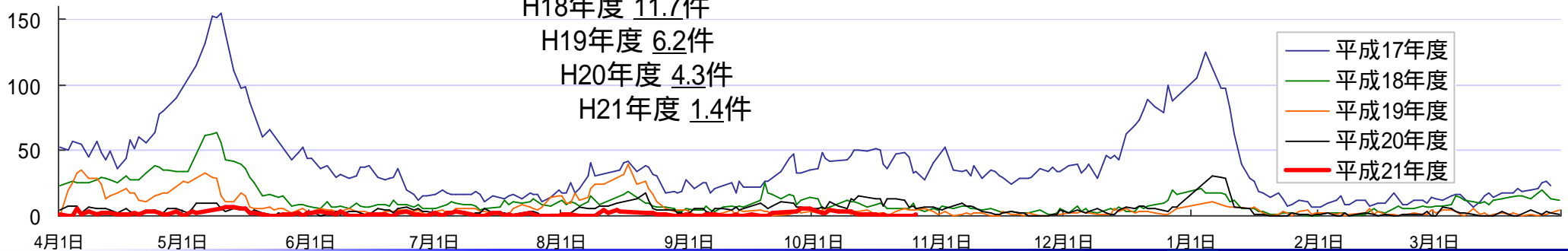
- 物流品質の更なる向上
- 販売数量増加への備え
- 物流コストの削減

物流コスト削減と品質向上



欠品アイテム数 推移

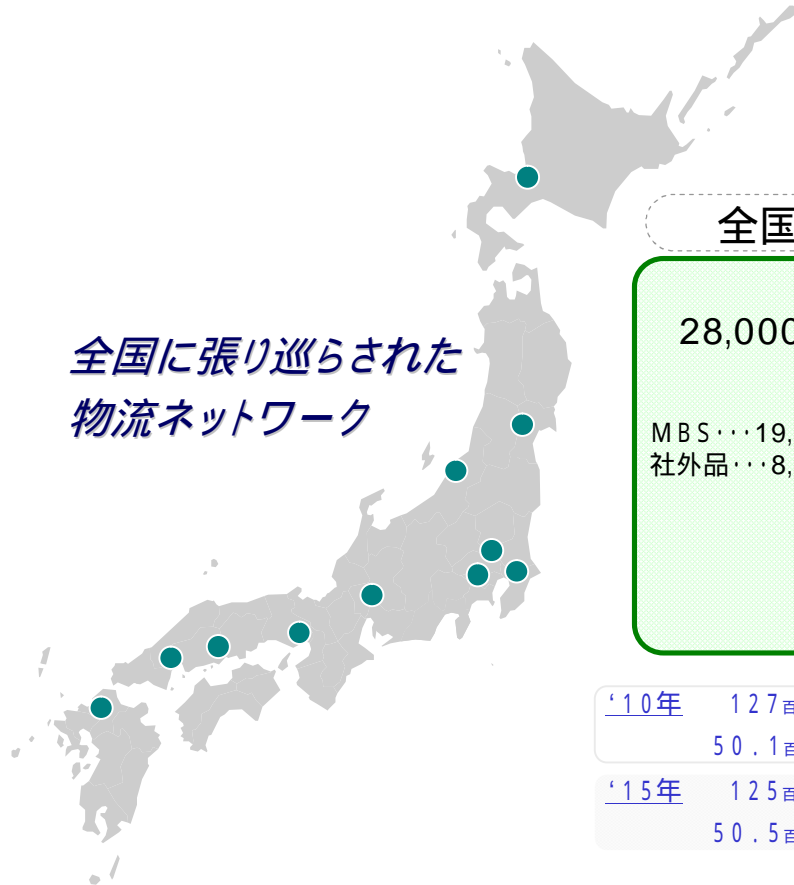
1日平均 H17年度 37件
 H18年度 11.7件
 H19年度 6.2件
 H20年度 4.3件
 H21年度 1.4件



物流ネットワーク整備



小分けピッキング拡大に向けネットワーク整備



包装資材・消耗品 マーケット

全国	北海道	東北	関東	中部	関西・中四国	九州
28,000坪 MBS・・・19,500坪 社外品・・・8,500坪	700坪	700坪	10,700坪	3,500坪 計画中	10,400坪 福山PC 建設中	2,000坪
	札幌PC	東北PC	関東PC 新潟PC 西関東PC 東京PC	中部PC	関西PC 福山PC 広島PC	九州PC
'10年 127百万人 50.1百万世帯	5.5百万人 2.4百万世帯	9.3百万人 3.4百万世帯	45.2百万人 18.4百万世帯	20.3百万人 7.4百万世帯	32.2百万人 12.8百万世帯	14.5百万人 5.8百万世帯
'15年 125百万人 50.5百万世帯	5.4百万人 2.3百万世帯	9.1百万人 3.4百万世帯	45.2百万人 18.7百万世帯	20.0百万人 7.5百万世帯	31.6百万人 12.8百万世帯	14.3百万人 5.8百万世帯

物流ネットワーク & SCM

エフピコ

サプライヤー

企業規模拡大へ



市場規模: 2兆円超



グループ経営



生産 連結会社

- (株)エフピコ北海道
- (株)エフピコ仙台
- (株)エフピコ山形
- (株)エフピコ茨城
- (株)エフピコ下館
- (株)エフピコ中部
- (株)エフピコ笠岡
- (株)エフピコ神辺
- (株)エフピコ福山
- (株)エフピコ箕島
- (株)エフピコ佐賀
- ティカ精密(株)
- エフピコ日本パール(株)

生産委託 会社

- 障がい者就労会社
- (株)ダックス
- (株)ダックス四国
- (株)ダックス佐賀
- (株)ノダヤ
- エフピコ愛パック(株)
- (株)茨城ピジョンリサイクル

日本全国 5,000万世帯の食卓へ、
年間 1,350万ケースの製品と
4,700万個の製品・商品を、
11万台のトラックで供給し、
19億枚(7,600^トン)の容器を回収

(株)エフピコ

販売・購買 連結会社

- エフピコチューバ(株)
- エフピコ商事(株)
- (株)エフピコモダンパック

資材メーカー
包装資材問屋

物流 連結会社

- エフピコ物流(株)
- (株)アイ・ロジック
- エクセル物流(株)
- エフピコピッキング(株)
- エフピコ中部物流(株)
- エフピコ関東ピッキング(株)
- エフピコ九州物流(株)

物流委託 会社



グループの総力を結集し、
企業規模と企業価値の拡大を図る

業績予想 2010年3月期 通期

販売計画 (2010年3月期 通期)



数量伸長率(枚数)

単位:百万円

	実績		見通し		増減	前年比	当初計画	
	09/3月期	百分比	10/3月期	百分比			10/3月期	百分比
ト レ ー 容 器	28,748	22.4	28,755	22.8	+ 6	100.0%	29,824	22.4
弁 当 容 器	67,814	52.9	69,270	55.0	+ 1,455	102.1%	68,870	51.8
そ の 他 製 品	1,981	1.5	1,390	1.1	591	70.1%	1,190	0.9
【 製 品 】	98,544	76.8	99,415	78.9	+ 870	100.9%	99,885	75.1
包 装 資 材	17,874	13.9	16,700	13.3	1,174	93.4%	24,055	18.1
そ の 他 商 品	11,824	9.2	9,885	7.8	1,939	83.6%	9,060	6.8
【 商 品 】	29,699	23.2	26,585	21.1	3,114	89.5%	33,115	24.9
【 売 上 高 】	128,244	100.0	126,000	100.0	2,244	98.3%	133,000	100.0

当初計画は、2009年5月11日発表の業績予想であります。

- ・製品出荷枚数 前年比105%伸長を見込む
- ・お客様のニーズを先取りした新デザイン、新機能製品の上市
- ・汎用製品でのシェア拡大、新規マーケットの拡大
- * 原材料の値下がりには製品価格へ還元し、適正価格での販売

決算計画概要 (2010年3月期 通期)



単位:百万円

	実績		見通し		増減	前年比	当初計画	
	09/3月期	百分比	10/3月期	百分比			10/3月期	百分比
【 純 売 上 高 】	128,244	100.0	126,000	100.0	2,244	98.3%	133,000	100.0
製品売上高	98,544	76.8	99,415	78.9	+ 870	100.9%	99,885	75.1
商品売上高	29,699	23.2	26,585	21.1	3,114	89.5%	33,115	24.9
【 営 業 利 益 】	9,190	7.2	11,800	9.4	+ 2,609	128.4%	10,720	8.1
【 経 常 利 益 】	9,298	7.3	12,000	9.5	+ 2,701	129.0%	10,800	8.1
【 当 期 利 益 】	5,302	4.1	6,950	5.5	+ 1,647	131.1%	6,140	4.6

当初計画は、2009年5月11日発表の業績予想であります。

販売面：品質に対する要求の高まり、中食市場の需要拡大、外食から中食・内食へのシフトなど、食環境の変化を先取りし、お客様のニーズに即した製品開発を行い、容器を通じて売り場の差別化を図る

技術面：最新鋭の設備導入と更新を行い、素材の薄肉化、製品の軽量化、新機能開発、新素材開発など、技術革新を推し進める

生産面：生産性および品質の向上に取り組み、需要拡大に対応した生産能力の拡大と生産拠点の最適化

物流面：SCMを核に、全国を網羅する物流システムを最大限活用し、より高い次元で合理化された物流サービスを提供

環境面：発泡スチロール製食品用トレーの自主的な回収に加え、新たに展開した透明容器の自主的な回収を加速し、さらなる循環型社会の形成に努める

設備投資・研究開発費計画 (2010年3月期 通期)



単位: 百万円

	実績 09/3月期	見通し 10/3月期	増減	前年比	当初計画 10/3月期
有形固定資産	8,249	9,900	+ 1,650	120.0%	10,250
内、土地	1,485	1,420	65		600
無形固定資産	841	570	271	67.7%	450
減価償却費	8,467	8,660	+ 192	102.3%	8,660
(旧基準減価償却費)	4,785	5,300)		5,320
研究開発費	965	1,000	+ 34	103.6%	1,000

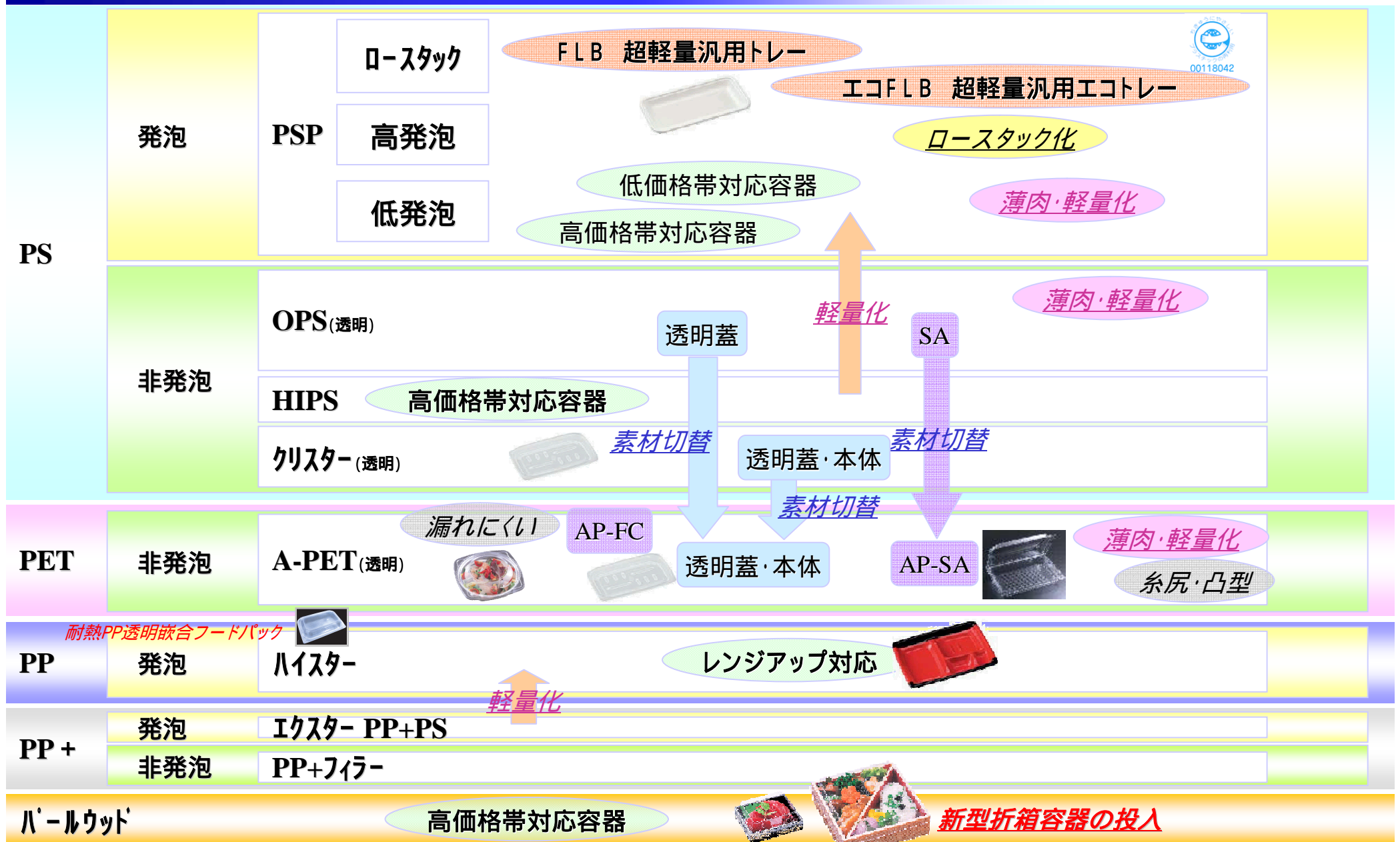
当初計画は、2009年5月11日発表の業績予想であります。

主な設備投資

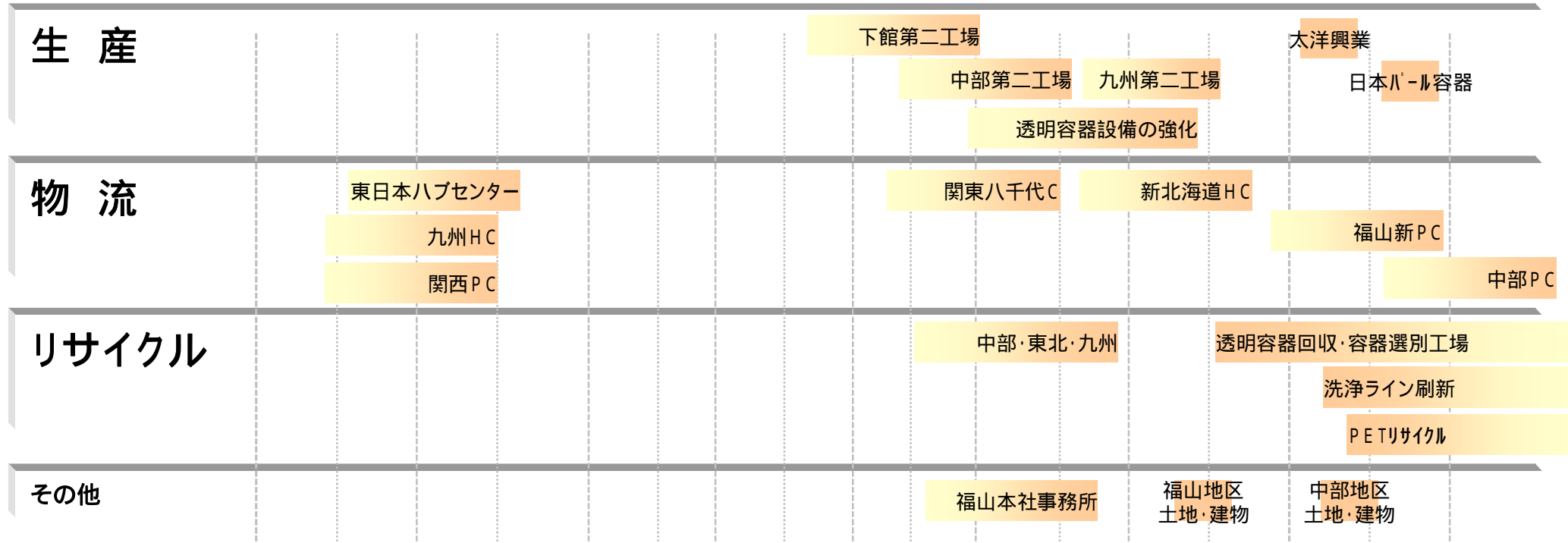
中部ピッキングセンター・リサイクル工場用地	1,001	百万円
福山新ピッキングセンター	1,800	
金型	1,760	
透明回収選別工場 等	765	
IT投資	640	
M & A 太洋興業(株)つくば工場	434	
日本パール容器(株)	425	

添付資料

素材別 製品販売状況



設備投資と研究開発



		03年3月期	04年3月期	05年3月期	06年3月期	07年3月期	08年3月期	09年3月期	10年3月期 計画
設備投資	有形	6,138	4,248	2,621	2,156	9,523	10,655	8,249	9,900
	無形	958	789	120	239	362	254	841	570
内 金型		780	460	436	600	771	609	618	1,760
リース調達 金型		938	800	983	1,440	1,534	1,581	1,274	0
減価償却		3,339	4,201	4,134	3,965	4,194	4,742	8,467	8,660
							旧基準減価償却	4,785	5,300
研究開発		654	628	689	751	895	913	965	1,000

単位: 百万円

經常利益增減要因



		'07年3月期	'08年3月期	'09年3月期	
經常利益 66.5億		81.2億	64.5億	88.9億+4億	
經常利益 增減		+14.7億 上期+11.1億、下期+3.6億	16.7億 上期 11.3億、下期 5.4億	+24.5億 +4億 上期3.2億円+4億円、下期21.3億円	
プラス要因	社内合理化	25.3億 上期14.6億、下期10.7億	20.5億 上期7.5億、下期13.0億	32億 上期8.3億、下期23.7億	
	生産改善	8.7億 上期 4.9億、下期 3.8億	3億 上期 2億、下期 1億	2.5億 上期0.5億、下期 2.0億	
	物流改善	8億 上期 4.5億、下期 3.5億	5.7億 上期 2.5億、下期 3.2億	5億 上期 1.8億、下期3.2億	
	素材切替、超軽量化 薄肉・軽量化	8.6億 上期 5.2億、下期 3.4億	11.8億 上期3億、下期 8.8億	24.5億 上期6.0億、下期18.5億	
	販売面	9.8億 上期2.4億、下期7.4億	12億 上期2億、下期10億	41億+4億 上期14.5億+4億、下期26.5	
	売上増加・ミックス改善	5.8億 上期 2.4億、下期 3.4億	3億 上期 2.0億、下期 1.0億	3億+4億 上期0.5億+4億、下期2.5億	
	製品値上 陥没価格是正	4億 上期 0億、下期 4億	9億 上期 0億、下期 9億	15億+23億 上期11億+3億、下期4億+20億	
	マイナス要因	原料価格上昇	13億 上期 1億、下期 12億	39.5億 上期 19億、下期 20.5億	14億+ 23億 上期 11億+ 3億、下期 3億+ 20億
		6,7,8次原料価格上昇	13億 上期 1億、下期 12億	23億 上期 17億、下期 6億	
		9次原料価格上昇、副資材価格上昇		16.5億 上期 2億、下期 14.5億	14億 上期 11億、下期 3億
10・11次原料価格上昇、副資材価格上昇				23億 上期 3億、下期 20億	
固定費増加、等		7.3億 上期 4.8億、下期 2.4億	9.8億 上期 1.9億、下期 7.9億	7.6億+ 4億 上期 5.7億、下期 1.9億+ 4億	

